

医療費適正化に関する施策についての基本的な方針の一部を改正する件（案）に関する意見募集の結果について

令和6年11月1日  
厚生労働省  
保険局医療介護連携政策課  
医療費適正化対策推進室

医療費適正化に関する施策についての基本的な方針の一部を改正する件（案）について、令和6年10月1日（火）から同年10月6日（日）まで御意見を募集したところ、64件の御意見をいただきました。

お寄せいただいた御意見の要旨とそれに対する考え方について、内容により分類し、以下のとおり取りまとめましたので、公表いたします。

皆様の御協力に深く御礼申し上げますとともに、今後とも厚生労働行政の推進に御協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

No.	案に対する御意見の要旨	御意見に対する厚生労働省の考え方
1	<p>【後発医薬品の使用促進策に関するご意見】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自己負担の増大で切り替えを促せると考える。</li><li>・後発医薬品を義務化すべき。</li><li>・後発医薬品がある先発品を保険適用外にしてはどうか。</li><li>・後発品はわずかに従来品とは違う影響が出るという先入観があるのではないか。このような方向性を正すような指針が必要ではないか。</li><li>・製薬会社からしたら後発医薬品は儲からないという噂を聞く。仮にそれが事実ならば後発医薬品を製造販売している製薬会社に補助金等の支援が必要。</li><li>・もし後発医薬品が処方された場合に保険給付される絶対額を、先発医薬品の保険給付の上限にしてはどうか。</li></ul>	<p>今回の医療費適正化に関する施策についての基本的な方針の一部を改正する件における後発医薬品についての改正は、後発医薬品に関する新目標を踏まえ、都道府県医療費適正化計画における後発医薬品の使用促進に係る数値目標を見直したものです。</p> <p>今回の医療費適正化に関する施策についての基本的な方針の一部を改正する件に関するご意見ではありませんが、後発医薬品の使用促進策に関する御意見として、今後の検討の参考とさせていただきます。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定的に製造を行うためには薬価を上げることが恒常的に製造し続ける上で必要不可欠。</li> </ul>	
2	<p>第4期医療費適正化基本方針「後発医薬品の数量シェアを、2023年度末までに全ての都道府県で80%以上とする」という政府目標のままで良い。先延ばしする余裕はない。社会保障審議会医療保険部会のような陳情は一切やめて、もっと利益相反のない第三者委員からなる議論にして下さい。</p>	<p>ご指摘の後発医薬品の数量シェアの目標については、現下の後発医薬品を中心とする供給不安や後発医薬品産業の産業構造の見直しの必要性に鑑み、医療機関が現場で具体的に取り組みやすいものとする観点も踏まえ、引き続き取り組んで行くべき目標であるため、第4期医療費適正化基本方針においても、継続して目標として設定しているものです。</p>
3	<p>後発医薬品等のシェアに関する目標を掲げることで自体に反対です。</p>	<p>後発医薬品の数値目標設定については、後発医薬品の使用促進は、医療費の効率化を通じて限られた医療資源の有効活用を図り、国民医療を守ることに意義があることから、医療費適正化に資する目標として設定しているものです。</p>
4	<p>【リフィル処方箋の促進策に関するご意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リフィル処方箋を義務化してほしい。</li> <li>・医療機関側にリフィル処方箋を案内させる後押しが必要。</li> <li>・リフィル処方箋の使用実績が低い医療機関の再診料を減算するなどのメリットを作るべき。</li> <li>・薬剤師の権限で処方できるようにすべき。</li> <li>・診療報酬等の設定によりリフィル処方箋の普及率を上げる動きをとりつつ、リフィル処方箋を適応できる範囲を広げていくべき。</li> <li>・処方箋様式において「リフィル可」ではなく「リフィル不可」のチェック</li> </ul>	<p>リフィル処方箋については、改正案のとおり、今後、国において具体的な指標の設定を検討し、必要な対応を行うこととしております。</p> <p>今回の医療費適正化に関する施策についての基本的な方針の一部を改正する件に関するご意見ではありませんが、リフィル処方箋に関する御意見として、今後の検討の参考とさせていただきます。</p>

<p>欄を新設し、具体的にリフィル不可の事情について理由を示すこととすること等はどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レセプト監査側、支払基金側がもっと積極的に介入し、なぜこの人物はリフィル処方箋ではないのか精査し、返戻を行うよう求めたほうがよい。</li> <li>・リフィル処方箋の運用の簡素化が必要。</li> <li>・リフィル処方箋を用いない慢性疾患の治療に対する給付を減らすべき。</li> <li>・リフィル処方箋で処方した場合としなかった場合で保険点数を同じにすべき。</li> <li>・リフィル処方箋でない場合は全額患者負担にするべき。</li> <li>・薬局に無診察処方がどの程度行われているか等の実態調査をしてはどうか。</li> <li>・リフィル処方箋に協力しない医師を強力に取り締まるべき。</li> <li>・病院や医師側がリフィル処方箋を発行しなかった場合、初診料・再診料・電話再診料・訪問診療料・処方箋料などを点数として認めないこととしてはどうか。</li> <li>・リフィル処方箋を必須とするケースでは、患者の再診予約を禁止する、あるいは同症状での再診予約はリフィル処方箋の有効期間分間の日数を空けることを義務付ける等どうか。</li> <li>・何らかのインセンティブまたは数値目標を設定するなど利用推進していくのが良い。</li> <li>・リフィル処方箋と長期処方を併存させず、リフィル処方箋に統一すべき。</li> </ul>	
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

5	<p>リフィル処方箋の KPI を設定するのは良いことだと考えます。</p> <p>また、必要な対応については、達成率を国民に適宜開示することも含めてもらいたいと考えています。</p>	<p>本案のリフィル処方箋に関する追記について、賛成の御意見として承ります。また、後段につきまして、今後の施策の検討の参考とさせていただきます。</p>
6	<p>リフィル処方箋については、その利用率に加え医療費の削減効果も KPI に含めるべきと考えます。</p> <p>加えて、具体的な取り組みについても適正化基本方針に明記すべきです。</p>	<p>今後、リフィル処方箋についての具体的な指標等を検討する際の参考とさせていただきます。</p>
7	<p>賛成します。</p>	<p>本案に賛成の御意見として承ります。</p>

※上記のほか、47 件の今回の意見募集に関係ない御意見をいただきました。